

女性の健康学校<ジョイ・ラボ> 3月セミナーのご案内

「性感染症の予防とケア：思春期からの危機管理」

講師：堀 成美先生

〈国際感染症センター 国際感染症対策室（感染症対策専門職）〉



- 神奈川大学法学部、東京女子医科大学看護短期大学卒業。
- 民間病院、公立病院の感染症科勤務を経て、2007-2009年国立感染症研究所 実地疫学専門家コース（FETP）修了、2009-2012年 聖路加国際大学・助教（看護教育学/感染症看護）
- 2013年より国立国際医療研究センター国際感染症センターに勤務（感染症対策専門職）
- 東京学芸大学大学院 博士課程満期退学（教育学修士）、国立保健医療科学院（健康危機管理学、Master of Public Health）修了。

性感染症は「特別な人がかかる」イメージをもたれやすいが、実際には性的接触や性行為がはじまったとたん、全ての人がその感染させられる/感染させてしまう リスクを抱える。

例えば、砂漠にいったら髪についてしまったり目に砂が入ってしまったりするのはしかたがないことである。少しでも減らしたければ風の流れをみたり防護をしたりはできる。しかし完全に1粒も曝露しないということは不可能である。

従来の性感染症の予防メッセージ/教育は、愛が強調されたり（愛があっても、愛があるから感染する）、コンドームでなんとかなる、特定少数なら大丈夫といった間違ったイメージや情報はらんでいる。そして、新しい科学的知見や対策の採用は進んでいない。

例えば、国の予防指針には感染症の1次予防として最も有効なワクチンが明記されているが、思春期の教育や健康支援において、そのような選択肢があることや具体的な情報にアクセスすることは簡単ではない。また、各国のデータが示すように、妊娠のリスクを回避する方法として、口腔性交や肛門性交が選択されているいっぽうで、学校では「尊い生命誕生」にて直結しない性的事象はほとんど語られていない。

国の感染症の危機管理として明記されているなかで、である。

近年は、若年女子において梅毒が流行し、年間に10例をこえる先天梅毒症例が報告されている。ここでも口腔性交での感染拡大リスクが示唆されているが、早期の症状が医療者に見落とされ、結果として治療や予防の機会が奪われてもいる。

淋菌のように多剤耐性が問題になっている性感染症が若年層で広がれば、妊娠出産 等にも大きな影響を与えることは確実であり、性感染症を「危機管理」として学ぶ機会を提供することを提案していきたい。

◆ 3月8日（水） 18：30～20：30

◆ 場 所： 対馬ルリ子女性ライフクリニック銀座

東京都中央区銀座 2-6-5 銀座トレシヤビル7階

◆ 参加費： 一般の方：4,500円 / ジョイ・ラボ会員：年間会費に含まれています

■ お申込み：必要事項をご記入の上、女性医療ネットワーク事務局までFAXにてお願いいたします。

FAX番号：03-3538-1019

お名前		ふりがな	
区分	女性医療ネットワーク会員	ジョイ・ラボ会員	一般の方
ご所属			
電話番号		E-mail	

お問い合わせ：NPO法人女性医療ネットワーク 事務局

メール：info@cnet.gr.jp 電話：03-3538-0250